

## 第 1 回 第 6 期中原区区民会議 課題調査部会 会議録

日 時：平成 28 年 10 月 31 日（月）午後 4:00～6:00

場 所：中原区役所 5 階 503 会議室

出席者：井上（部会長）、梅原（副部会長）、伊藤、内田、児玉、中森、田邊、関口、鈴木（晴）

## 【委員 9 名】

高橋副区長、村田危機管理担当課長、鈴木企画課長、中野職員

## 【事務局（区役所企画課） 4 名】

岩下【コンサルタント（株カイト） 1 名】

## 1 開会

開会宣言

資料確認

会議の公開について

## 2 中原区区民会議課題調査部会要領について

別添 3「中原区区民会議課題調査部会要領」の内容に基づき、課題調査部会の所掌事務や組織等、正副部会長等のしくみについて、事務局が説明、特に異議や意見はなく、その内容を承認した。

## 3 正副部会長の互選

承認された「中原区区民会議課題調査部会要領」に基づき、正副部会長を互選した。

事務局から、第 6 期中原区区民会議副委員長である井上委員を推薦する提案があり、井上委員がこれを受諾、他の委員も拍手でこれを承認した。

副委員長については、井上部会長から区民会議の経験者として梅原委員を推薦する意見があり、梅原委員がこれを受諾、他の委員も拍手でこれを承認した。

**井上部会長就任あいさつ**：この中で一番若い私で恐縮だが、若さを武器にして頑張っていきたい。皆さんが気兼ねなく意見を言えるようにしていきたいと思う。ご協力をお願いいたしたい。

**梅原副部会長就任あいさつ**：危機管理がテーマということで、内田委員の方が本職かと思うが、頑張りたい。よろしくお願いいたしたい。

## 4 会議録確認委員の選任（進行：井上部会長）

会議録確認委員の選任について、井上部会長から本会議同様「部会長・副部会長を除いた名簿順で会議ごとに 1 名の委員を指名」との提案があった。更には今期区民会議の他の会議での会議録確認委員を既に務めた委員を除外することとし、児玉委員が努めることとなった。

## 5 第 6 期区民会議の審議テーマについて（進行：岩下（コンサルタント）

○資料 1 に基づき、審議の進め方について、説明した。

○資料2に基づき、第2回全大会の意見・論点に基づいた検討事項、事務局案として設定された4つの論点（案）について説明があった。

**【意見交換】**

**梅原副部長** やはり世代交流が鍵になるかと思います。

**コンサルタント** 梅原副部長はボーイスカウト活動をされているが、その活動で防災がテーマになることなどはあるか。

**梅原副部長** 子ども達と一緒に起震車を体験したり、消防署など見学して、講義を受けるといった体験をしている。

**内田委員** 事務局案の論点1のキーワード「情報弱者」と論点3の「情報共有」は共通する部分があると思うが、あえて分けている理由はあるのか？

弱い人が強調される事が多いが、では強い人はどこにいつてしまったのか。強い人が弱い人を庇ったり、手助けできるのではないか。その辺りも含めた表現ができないかと常々感じている。例えば車いすの方の面倒は誰がみるのか、ご家族だけでは厳しい。地域に助けられる人がいるのではないか。そこに繋ぐにはどうしたらいいのか。

**井上部会長** 情報を取りえない人について、どうしたらいいのかという課題が論点1の「情報弱者」。論点3の「情報共有」は情報弱者の方だけでなく、関心が低い方々も含めて情報をどう伝えていくかという課題、と私は捉えた。みなさんがやりたいことを、感じていることを出してもらって、それにこれまでのキーワードが盛り込まれていれば良いと考え、強い人と弱い人の線引きなどに捉われるとなかなか話を進めるのが難しくなってしまう。

**伊藤委員** 他区になりますが、井田中学校ではおやじの会が防災訓練などで活躍している。中学生世代の保護者は体力的に一番動ける世代である。井田中学校は二つの町会でまとまりやすい面もあるのだと思うが、毎年のように防災訓練を開催している。私が一度見たのは野外でテントを張るような訓練だった。

防災については、市民全体が参加していただくのが理想だが、残念ながら、参加しない人、興味を示さない人がいる。私の町会では、自主防災組織のマニュアルに沿って組織づくりを進めている。役職は町会の役員等が任期3年くらいで務め、DIG（図上訓練）などを進め、理解を強化している。役職は比較的若い方にもお願いしているが、1年くらいしか務められなかったり、防災訓練に出て来られない方もいる。しかし、「もし災害があった時は、小学校の避難所に行って、できる手伝いをしてください」「自分がどこの班に所属しているのかは知っておいて下さい。」と伝えている。地域防災の土台は人であり、組織です。災害発生時に役所の人に来て、動かしてくれるわけではない。夜中に災害が発生したらどうするのか。うちの地域は5町会で1小学校区なので、まとめるのは大変である。

**梅原副部長** 災害が発生したときには、弱い人も強い人も避難所に集まってきて、しっかりした人ばかりでなく、混乱するのではないか。そうすると、そこで仕切る人がいることが大切になる。

**伊藤委員** そのとおり。その仕切る人がいることが重要だ。

**梅原副部長** 「なぜあなたが仕切るのか？」と言われた時に、例えば「私は危機管理士の資格を持っています」とか言えると良いのではないか。

**内田委員** どのような人が弱者なのか、まず考え、原点を明らかにしたい。

**児玉委員** 私は送迎ボランティアをしているが、車椅子の方は「地震が発生したら、私達は  
どうなるんだろう」と不安を持っている。介護者が近くにいればよいが、私がお手伝いし  
ている方は少し離れた地区の方で、誰に付き添っていただけるか、町会に助けていただけ  
るのか、気になっている。

**中森委員** 体が元気で、外国の方など言葉がわからない方もいる。また、目が不自由な方、  
耳が不自由な方など身体が不自由な方も困ると思う。情報がなかなか入って来ないと思う。

**伊藤委員** 個人情報の問題で、どこにどんな障害をお持ちの方がいるかの情報の共有が難し  
い面がある。災害時にはその情報が提供されるようだが、日常から知っていなければ役に  
立たないと思う。日常から「お宅の隣には車いすの方がいますので何かあった場合には気  
にしてください」と本当は言ってあげたい。

**田邊委員** 本人の確認をとった上で、町会で把握して、災害時に支援する人の確保に努めて  
いる仕組みもある。この仕組みを使っている人については、私たち民生委員にも日常から  
情報が入ってきている。

**伊藤委員** 民生委員が自分の担当範囲以外の所でも、もっと全体で気が付けるようになって  
いることが理想だが、現状では全ての情報を持っているのは町会長だけとなっている。民  
生委員が不在の場合等も想定される。

**梅原副部長** 就学前の子ども、幼児も弱者となっている。自分でまだ判断ができない。小  
学校低学年くらいまで入るかもしれない。平日の日中であれば学校対応になるでしょうか。

**コンサルタント** 事前の企画運営部会では一人暮らしの高齢者なども弱者として挙げられ  
ていた。スマホなどで情報を発信しても扱える方が少ないので、どのような情報発信がで  
きるかという話題だった。

**伊藤委員** 高齢者でなく、中年の方でも情報機器が苦手な方はいる。年齢に限らないと思う。  
一方、高齢者でも使いこなせる方もいる。

**内田委員** 転入者も出ていた。まだ地域の誰とも繋がっていない方。転入の手續に役所に来  
る際に、ゴミの案内や町会の案内などを配布している。それをきちんと見て、繋がって  
くれる人は良いが、そうでない人も多い。

**井上部会長** 興味がなくて見ない人は情報弱者という考えになるかもしれない。

**内田委員** それをどうやって発信して、届くようにしていくかが、論点3の「情報共有」と  
いうことになる。

**伊藤委員** とても難しい問題です。受け手に受ける気がないのだから。

**井上部会長** 興味を持っている人はターゲットにしなくて良い。興味をもっていない人にど  
うやって知ってもらえるか、興味をもって参加してもらえるか。

**中森委員** 転入時に様々な資料を渡すが、あまりにも情報が多すぎて読む気を無くさせてし  
まっていると思う。本当に必要な最低限の情報を渡して「これだけは見てください」と言  
いたい。外国籍の方は特にそう。本当に自分が困ったときでないと情報を探さない。「こ  
こに電話すれば、ここに聞けば情報が得られる」という形にすれば、配布物はもっと絞り  
込めると思う。区役所1階の情報コーナーも、物がたくさんありすぎて、何を見たらいい  
のか分からなくなってしまう。

**内田委員** 情報や資料はこれだけあるのに、「もっと発信しろ」と言う方もいる。こちらと  
しては、大きく発信しているつもりでも、とても小さい記載ととられてしまうこともある。

情報をどう受け取るかは個人にまかせざるを得ない部分はあるが、それでも情報発信は必要だし、知らせていかなければならない。

**中森委員** 情報発信していれば、読んでくれる人もいる。

**井上部会長** 「当事者性」をいかに感じてもらうかということかも知れない。感じていない方は情報弱者になってしまう。

**事務局** 先日、市政だよりの区版で、熊本地震の機会を捉えて、防災情報の提供について周知した。本日お配りしている各防災関連のマップを紹介し「関心のある方は取りに来てください」と記載したら、100人以上の方が窓口に来て、合計数百部の資料を配布した。液状化の危険度など、関心が高かった。

**伊藤委員** 毎年のように資料を頂いているが、私が持っていない資料もあった。

**事務局** 液状化危険分布マップ、ゆれやすさマップ、洪水マップなどを一つのセットにして窓口で配布した。行政としては様々な資料を作り、配布は進めている。中森委員ご指摘のように多言語版の製作などの課題はあるが、周知に努力している。

**中森委員** 防災マップについては、六か国語で用意されている。

**事務局** ゆれやすさマップなどはまだ日本語版しかない。また、今回の配布で残部が無くなってしまったものもある。

**井上部会長** 「市政だよりの」で扱った事で、一定の反響があったということですね。

**梅原副部長** 無関心層が弱者ということになると、警察の110番、救急の119番のように、何か災害時には「ここに聞けば良い」というような情報を流すべきではないか。

**内田委員** その考え方は少し危険。防災については自分で考えて、行動していただく部分も必要。「頼りにするな」と言いたい。行政や町会長、民生委員に電話すれば何かしてくれるのか。できないこともあるし、その人も被害を受けているかもしれない。だから自分の地域の輪を大切にしていきたい。町会単位などで、取り組まれているところは良いが、弱者が誰なのか、どこにいるのか、まだ掘り下げが足りないように思う。

**事務局** 日頃からの弱者と、災害が発生した時の弱者は異なってくる。また、実際に災害が発生し、誰かを助けようとする際には、弱者かどうかは意識せず、救える人は誰でも救うのではないか。

**内田委員** 「世代交流」について、中高生の避難所開設訓練への参加が地域に断われたという話があった。中高生がお手伝いできる事は本来たくさんあると思うし、例えば物や負傷者を運ぶときの力と充分なりうる。お互いに普段の活動報告をするだけでも、次に繋がると思う。

**鈴木委員** 合同防災訓練の話になった時に「大人がまだできていないのだから、一緒にできるわけない」といわれてしまった。本当にもったいない。中学生は土日も部活動などで忙しいが、その時間を一部割いて、参加できる中学生だけでも参加するという話だった。

例えば非常用トイレの組立方などやってみなければわからない。年に1回でも出して、経験者が増えると良い。中学生の方がメガネもいらずに説明書も読めたりする。

**伊藤委員** 私の地域で昨年訓練をやった時は中学生も出ていた。

**内田委員** 中高生と地域のパイプ役ができる方を見つけることが重要だと思う。実現できれば素晴らしい。

**鈴木委員** 息子が西中原中学校に通っているが、全校生徒で1400人以上いる。この力を動

かすことができれば、すごいなと思う。

**井上部会長** 私は川崎フロンターレというスポーツクラブに属しているが、幼稚園年長から高校生までチームがあり、その監督たちも社会活動に対して意識が高い。こうした場に働きかけても、実現の可能性があると思う。

**伊藤委員** やはり町会やPTAとの接点ですね。それがなかなか無いことがある。

**田邊委員** 校長先生の方針によってすごく違うと思う。西中原中学校の前任の校長先生は防災について、すごく積極的に動いていた。日中に災害があった場合、高校生は必ずしも地域の学校ではない、中学生は地元がたくさんいて、力がありあまっている世代。スマホなどの情報機器も使いこなす。

**井上部会長** 若い内から成人教育の一環として行うのも良いと思う。私も若い世代と接する機会があるが、話していると、「子どもではない」と感じる。

**コンサルタント** 例えば地域の学生塾、梅原副部長が活躍されているボーイスカウトの様な活動など、様々な青少年団体と協力して防災の取組が進められると良いかもしれない。パイプ役さえ確保できればということか。

**内田委員** 「町会と」ではなく、「避難所運営と」いろいろな団体をつなげるという表現にしていだければと思う。

**中森委員** 8月に川崎市の総合防災訓練があり、その中で避難所体験があった。稲田中学校が会場だったが、外国籍の方々や中学生も参加して、一緒に物を運んだり、いろいろな役割の中で活発に動いていた。良い体験ができた。

**梅原副部長** 仕掛け人がいないとなかなかそうはならない。また、単独町会で実施するのはなかなか難しいと思う。

**中森委員** 2年前には区の主催で、井田中学校で大きな訓練が行われていた。

**田邊委員** 町会ではなく、学校が主催する訓練に地域の方が参加するような形はできないか。世代交流が自然とできそう。

**伊藤委員** 避難所は中学校だったり小学校だったりする。

**中森委員** 小学生も高学年になれば、大分体も大きく、力もある。いろいろ役割を与えることを考えても良いと思う。何かやりたいという気持ちもあるのではないか。

**事務局** 近年は学校側の防災意識も高まってきている。また昔は防災訓練で「引き取り訓練」といって、保護者が子どもを迎えに来る訓練があったが、大災害の際はむしろ多くの方々が学校に集まってくるのが現状であり、帰すよりも受け入れることを考えていただいた方が現実的。私が先の熊本の避難所を訪れた時は、小学校のお子さんにも実際に活躍していた。小中高生が本当に一生懸命で、優しい心を育む、人間形成にも役立っている、素晴らしいと感じた。

**中森委員** 4期の区民会議で防災がテーマになった時、DIG(図上)訓練を提案しましたが、子ども達も一緒にやれるものだった。

**伊藤委員** やっている学校とやっていない学校がある。

**事務局** カリキュラムには入っていないので、各学校による。

**内田委員** 高齢者の中には、人生での経験を通じた確かな技術を持っている方がいる。その技が防災の様々な場面で活かせることもある。町会単位の活動、日常の中でのふれあいが重要で、みんなが技を持ち寄って協力し合い、地域の輪をつくりたい。先日、全町連を対

象にした危機管理室主催の講演会で講師の山村先生が「避難所は最悪の場所ですよ。避難所で亡くなる方も多い、劣悪な環境になる」ということだったが、地域の輪で少しでも和めたら素晴らしいと思う。

**関口委員** 良い訓練や取組ができている地域は、それを更に伸ばしていけば良い。でも「他の町会でも同様にやれば良い」という事は発想としては良くても、なかなか難しい事もある。できるのだったら既にやっているはず。モデルケースを紹介するのは良いが、例えば学校が強い地域だったら学校が中心になるなど、それぞれのやり方で進めれば良く、手法まで一律にする必要はない。また、町会は幹部の意識から変えていかなければ、なかなか世代交代が進まない。70代、80代の方々が中心となっている町会が多いのが現実。

**内田委員** 私は焦らなくても徐々に世代交代していくと思う。気が付いたところから変わっていく。高齢者中心で仲良くやっている町会は、それはそれで良いと思う。お神輿や盆踊りなど楽しくやっている。まだ数十年はかかるかもしれないが、良い方向に行くと信じている。

**井上部会長** 良いところを伸ばしていこうというご指摘はすごく重要。やれないところでやろうとしても反応が薄く、難しい。やれるところでやり、それが目につくようになり、そこから「自分たちもやろう」と繋がっていく。その手法しかないと思っている。無関心層の方が興味をもっていただける形に繋がるのが理想。

**伊藤委員** 井田小学校で平成初期に実施した避難所訓練が、おそらく川崎市で最初で、市のPR映像にも取り上げられたが、その後一時期、学校が校庭を貸してくれなくなり、取組がしばらく進まなかった。そして東日本大震災があって、また貸してくれるようになった。大きな転換期だったと思う。備蓄倉庫もそれまで中学校のみだったものが、小学校にも整備されるようになった。

**井上部会長** 「世代交流」は手段であって、論点ではないと思う。「当事者意識を持ち、それぞれができることをしてもらうためには？」が出発点で、そこに「手法」として世代交流をいければ促進するということだと思う。

**内田委員** 災害発生時にどこに連絡したらいいのか、どこに何があるのか、私は何をしたらいいのか。そうした情報を知りたい方は多いと思う。それらを発信する場所、答えの頂ける所、電話なのか、場所なのかはわからないが、情報の流れをつくることは必要だと思う。

**井上部会長** 大事なテーマの一つだと思う。ただ、そのこの所と無関心層へのアプローチを一緒にやろうとすると、大変な労力が必要。

各委員さんの問題意識ややりたい事は防災という分野では共通しているが、違う面がまだまだあると思う。それぞれ思う課題を自由に出してもらって、その中で取り組むべきものを考えていければと思う。

**内田委員** 重要な指摘。視点が違うからこそ「これでいいのか」と常に問い続けながら進めなければならない。だから皆さんが考える「弱者」とは誰なのかお聞きしたかった。そういう場合もあるよね、と私が気が付かなかった点があるかもしれない。

**田邊委員** 今日の朝日新聞に「車中泊のリスクを減らす」という防災に関する記事が掲載されていた。熊本の地震では避難所に行かずに車の中や自宅で生活をしていた方が多くいる。そうした方々に情報をうまく伝えていくことが重要だと思う。例えば自宅で被災生活を続

ける独居高齢者などにどうしたら情報を伝えられるか。そのために中高生の力が使えるかもしれない。自宅などに行って必要な情報を伝えたり、インターネットから情報を得る手助けができると思う。

記事には箱 2 個を使ったトイレの作り方も掲載されているが、こうした情報はインターネットからも得ることができる。

**伊藤委員** 避難所に全員来られたら、避難所はパンクする。私の地域では、耐震性の高いマンションの集会室や共有スペースを避難スペースとして提供いただけないかというような話も出ている。

**梅原副部長** 世代交流を進めるなら、学校が核になると思う。

**中森委員** 災害発生時には避難所で生活しない人も、一度避難所に行って、受付をするべきではないかと思った。「自分の家はまだ大丈夫です」「〇〇にいます」という様な情報を安否確認の為に登録するような仕組み。そして登録することで情報を得られるようになれば良いと思う。

**伊藤委員** 私の町会ではトランシーバーを準備している。災害発生時にはそれで連絡を取り合い、安否確認なども各担当ともやりとりする想定。

**中森委員** 町会に入っていない人も増えている。それも一つの課題。

**伊藤委員** 町会加入については、行政にもっと協力をお願いしたい。町会に「入りましょう」ではなく、「入りませんか？」と強く働きかけて欲しい。

**内田委員** 情報共有で安否確認の情報板というのは良いと思った。やってみたいと思う。これまでは避難所で生活する人を対象の中心に考えており、家が大丈夫で家にいますよという情報までは追っていなかった。

**伊藤委員** うちの地域ではそこまで把握をしようとしている。

**梅原副部長** 避難所は避難先という事だけでなく、情報が集積される場所だという認識を広めることが必要なのではないか。

**中森委員** 国際交流センターで外国籍の方々にアンケートをした。町会に入っていますか？という設問では、結構入っていない方が多いことが分かった。また、地震に対して不安を持っている方も多いことが分かった。

**事務局** 先ほど、良いところを伸ばそうという話があったが、行政としては、全体のボトムアップも図っていききたいという考えもある。本日、資料 3-2 として参考に中原区内の避難所の運営会議とその活動状況の一覧を配布した。頻繁に活動している所もあれば、そうでないところなどもある。

避難所はノウハウも大切だが、それを実行できる担い手がいなければ始まらない。避難所はできる限り行かない方が良いところだが、どうしても行かなくてはならない人にとっては、少しでも快適な方が良いし、少しでも多くの方が手伝ってくれた方がその快適性が高まる。

情報については、それが信頼できる情報かどうかということも重要だと思う。災害時に悪質なデマが流れた事例もあり、口コミなどを安易に信頼しない方が良いこともある。

安否確認については、東日本大震災の時には避難所や自宅に、「どこどこにいます」などの掲示がたくさん貼ってあったが、まだそうした意識や訓練は中原区ではまだあまりないかと思う。

避難所運営会議は単独町会でやっている所もあれば、6, 7町会合同になっている所もある。町内会・自治会の自主防災組織、学校やPTAの方々や地域のボランティアの他に、川崎市独自の制度で「支援要員」として市役所の職員がいざとなったら、住んでいる地域の避難所に駆けつけることになっている。ただ、この職員はエキスパートではなく、あくまで一人の要員。これらの方々を地域の避難所運営のリーダーになれるように育成の取組を進めている。中原区では既に全ての避難所で避難所運営マニュアルを作成し、避難所の鍵もそれぞれで管理して避難所運営の仕組みづくりを進めている。ノウハウをもっている業者にも委託しながら進めている。

## 6 その他（事務連絡）

○次回の課題調査部会 12月8日（木）14:30～

○取組提案等の検討シート提出のお願い

○地域の防災訓練の情報提供（見学可）

・11月13日（日）14:00～ 井田小学校

土砂災害、鶴見川反乱時等の避難所開設・運営訓練

・11月27日（日）上丸子小学校 町会と大規模マンション12組織の防災訓練

・来年2月 地域見守りセンター 福祉系の防災訓練の企画を検討中

・11月14日（水）8:30～12:30 武蔵小杉駅周辺 帰宅困難者訓練

県警企画、各区主催で川崎駅、武蔵小杉駅、新百合ヶ丘駅等で行うもの。

## 7 閉会

（以上）